「カブ隊長８年目の日記」８月

浜嶋鉱一郎

「まえがき」

　ボーイスカウト活動は、楽しい活動で一生にわたって続けられます。
　永遠のスカウトという歌の中には、「死して後もスカウトだ」という歌詞があります。

　ボーイスカウト活動は、自然と関わる活動を通して、子供たちを精神的に育むことができるものです。昨今、地球温暖化が人間生活に影響を及ぼす気候の変化をもたらしています。二酸化炭素の排出は、産業の問題だけでなく、家庭の一人一人が自覚して、持続可能な社会を作り上げることが必要になっています。ここで、自然と人間との関わりを体験的に理解できる経験をより多く子供たちに与えることが重要になると考えています。
　私は、ボーイスカウト活動が２００８年で２０年になります。特にそのうちの８年間をカブ隊の隊長として努めてきました。カブ隊に小学校２年生で入隊したスカウトが高校２年生になりました。同学年で１２名いたスカウトのうち８名が今もベンチャースカウトとして活動を続けています。自分の子供の他にも４０名近くのスカウトの成長を見ることができて、これまでを楽しく過ごすことができました。
　この間さまざまなスカウトたちがいて、さまざまな悩みも抱えながら、活動を継続して頼もしく成長したと思います。私が隊長になって最初の年は、作成したプログラムを必死で実行してきて、正直スカウトをよく見れていなかったように思います。逆にスカウトは良く見てくれていたでしょう。いまでも、自分の子供のように接することができます。スカウトも親しく声をかけてきます。最初は泣きべそをかきやすかったスカウトも歌を大きく歌えるようになってから、見違えるように元気になりました。作文の書き方がすごく表現豊かになったスカウトもいます。雨の降るキャンプでも黙々と炊事をできるようになりました。
　しかしながら、保護者は、自分の子供が８年間どのように活動しているのか、リーダーは何を考えて隊活動を運営しているのかはあまり知らないでしょう。子供が無事に楽しく１日を過ごしてくれたらいいという保護者もいると思います。私は、次の隊長をお願いする人にできるだけ今の活動の考え方を維持しながら、スカウトにリーダーの経験の溝を感じさせずにするためには、カブ隊のマニュアルが必要だと２年ほど前から考えていました。昨年は、毎回の活動についてその日の内に保護者にメールで報告していました。これで少しは子供が何をしているかをわかってもらえると思います。それで、これらに加えて、リ

ーダーの準備も含めてまとめることで、保護者やリーダーにとって参考になると考えました。

私は、優秀な隊長であるというわけではありません。最初に日本ボースカウト大阪連盟吹田１９団に子供と一緒に団委員としてボーイスカウトに関わりました。私は、それまで１０年間ソフトボールチームに参加していて、クラブ活動やサークル活動でわいわい行動することが好きでした。ボーイスカウトに入って、ソフトボールは妻に辞めさせられました。団委員では、地区の進歩委員会を担当しました。また、カブ隊付き団委員でもありました。それで、毎回の隊集会に参加することになりました。ついつい、世話好きでシャシャリでたりしました。カブ隊は開会儀礼でカブ隊の歌を歌います。それを見ていて、「もっとしっかり歌った方がいいんじゃないの」と隊長に話したところ、「そうなんです。それじゃあ、ハマシマさん、歌のインストラクターになってください」と言われてしまいました。この隊長は、ずっと、私を「ハマジマ」でなく「ハマシマ」と呼んでいました。それで、躊躇なく「いいですよ」と答えましたので、最初の年からカブ隊の活動に関わるようになりました。歌は、うまい訳ではありませんし、教えた経験はありませんでした。私が引き受けたわずかな自信は、大学と社会人でギターマンドリンクラブのコンサートマスターを８年間やっていたからです。それから、歌集を見ながら歌の練習をしました。歌集の楽譜を見ただけでは音程がわかりませんので歌えないです。でも、マンドリンで弾けばどんな曲でも歌えるようになります。一番重要なボーイスカウトの連盟歌の歌い方が、皆さんおかしいことも見つけました。これまでは聞き伝えで覚えてきたのでしょう。全員が間違った節回しで歌っているのです。少し難しい部分でありますが、重要な部分です。

２年目には、カブ隊のデンダッドになり、３年目には副長になりました。４年目は息子がボーイ隊に上進しましたが、カブ隊の副長に残りました。そして、妻の要望で、カブ隊の隊長の要請を断り、ボーイ隊の副長に進みました。それから、息子の中学入学に合わせて豊中第二団に転属しました。吹田１９団に所属しているときに、隊長の資格を得るカブ課程とボーイ課程のウッドバッジ研修所を修了していました。豊中第二団のボーイ隊で副長を４年間行い、それからカブ隊の隊長になりました。隊長経験は８年間になりました。保護者をデンリーダーや副長には育てましたが、隊長の後継者は、若手のリーダーがでてくるまで待たないといけない状況です。隊長のなり手はいなく、長々と隊長を続けています。

ここで、後継者の悩みもありますが、むしろ多くのスカウトとの触れ合いやリーダーとの共同活動を楽しんでいます。

子供たちの生活の中では、学校のクラブ活動、スポーツチームへの参加、それとわれわれのボーイスカウト活動があります。それぞれに子供の教育のための活動です。子供は、

自分が好きなもの、楽しいものを選択していると思います。親がさせたくても子供が好きでなければ選択しません。無理にさせても続きません。

本書は、日記の形で実際に展開する具体的な活動の中で、さまざまな課題に対応することを紹介したいと考えました。

まとめ方としては、スカウトのためには、楽しく参加することや自分が何をすべきかということを保護者を通して伝えたいと思います。保護者やボーイスカウト活動に興味を持つ一般の方には、ボーイスカウトの考え方やリーダーとしての考え方を説明します。そして、リーダーの方には豊中二団のリーダーの活動を参考にしていただければ幸いです。

８月は、カブ隊の年間で一番大きなイベントとして、本舎営があります。スカウトは、１年間の訓練及び成長の証を見せる集大成の月になります。そして、３泊４日の長期活動は、１年間で最も著しい成長を遂げる機会となります。５月から舎営のために始めた準備は終わりました。隊長は、プログラムが充実した精神的な活動になるよう仕上げに取り掛かります。

舎営が終わると隊長の気持ちはすぐに新年度に向けて動き出します。新年度のスタートが、スカウトに新しいチャレンジ精神を植え付ける入隊式及び上進式としたいと思います。

〜〜〜

■８月２日（金）

「成長のための楽しい舎営にするために」

　夏の舎営は、今年も鉢伏高原で行なう。１週間後の９日に出発だ。私は、この時期になると舎営のあらゆる場面を想像し、楽しさが込み上げてくるのを感じる。参加者は、スカウトが６名、リーダーが５名だ。いつもより人数は少ない。だから余計に指導者は頑張らないといけない。舎営という言葉は一般に馴染みがない言葉だ。テントを使ってキャンプを行なうことに対して、建物に泊まって活動するという意味で、区別している。

　舎営のプログラムは、すでに完成した。これを楽しい活動にするため、さらに細かな仕掛けを盛り込んだ脚本を作る。プログラムを進めるだけでなく、４日間を継続した流れでテーマを展開する。様々な場面で楽しい雰囲気づくりのネタを考え出すと実に楽しくなる。スカウトにやる気を出させること、リーダーが意識的に盛り上げるポイントを共有する。

　また、スカウトの個々の特性を具体的に向上させたいことがいっぱいある。舎営を通じてスカウトたちが悩んでいる課題あるいはスカウトは気付いていないけれどもっと習熟させてあげたいと思われる対処法を実施する。

　そこで、以下の課題の対応策を副長に提案した。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

●「スカウトの課題をクリアするために」

浜嶋です。

　今回の舎営で、スカウトの課題をいくつかクリアしたいと思います。

１．山田君と大野君が大きな声をだせるようにすること。

２．奈々が自力で鉢伏山に登れるようにすること。

　また、全体として楽しくするために、どんな準備をしたらいいでしょうか。

　まず、さまざまなゲームに対する表彰の方法を考えてみました。

　スカウトは、勝つことが一番楽しいようです。誰もが少しでも勝つ体験ができるようにしたいです。

１．表彰状

　各競技の一つずつの結果について優勝、準優勝などの小さな表彰状を渡します。

２．個人記録表

　個人の努力の結果が形で見えるようにします。デンづくりの一つの方法と考えてくださ

い。個人記録表は、一人ひとりの今日の獲物、ここでは表彰状を集める場所になります。
各自には個人記録表（水色のＢ４サイズの画用紙）を渡します。表彰状はＢ８サイズでやはり色画用紙で作ります。毎日いくつか獲得できますからその表彰状を個人記録表に糊で貼りつけます。舎営から帰るときには、用紙にいっぱい貼られると思います。１枚で足りないかもしれませんが、工夫して貼ってもらいます。

３．元気印カードの授与
スカウトは、大きな声がでるようにしたいですね。そこで、元気印カードは、各自が大きな声を出したときのご褒美にします。スカウトは、朝起きたら朝礼までの３０分間、各リーダーに大きな声で挨拶をします。これができたら、緑色や赤色の元気印カードをもらえます。朝礼までに何人かリーダーと出会うチャンスがあり、大きな声で挨拶して獲得します。スカウトが、朝礼までに大きな声をだせなければ、黄色の「もっと頑張れカード」を渡すことになります。黄色のカードは、すべてイエローカードという意味になります。
スカウトに大きな声をださせるチャンスを何度も与えて、各リーダーが一人ひとりの基準で行なってください。３日分あります。１日目は赤、２日目は緑、３日目は黄緑のカードです。このカードは、スカウト１人に対してリーダー４人分作りましたから、３日間で１２枚獲得できます。

４．アホ変身競争（世界のナベアツの３の倍数でアホになる）
すでに隊集会で経験済みのゲームです。この競争の順位は想像がつきますが、山田君と大野君に頑張ってもらうことが目的です。第５戦まで優勝者に対して黄緑の優勝カードを与えます。これも成長を促すために、2位以下を「もう一歩で優勝」､「だいぶん頑張った」､「ちょっと頑張った」カードを与えます。５位と６位は、「アホになれないアホ」と書かれたイエローカードです。

５．側溝でのスピード船競争
各自に蒲鉾板を用いて家で作成してもらった船を使用します。スピード船競争は、親水公園からの帰り道にある側溝で行ないます。側溝は、幅が３０ｃｍで距離は１００ｍぐらいあります。深さ１５ｃｍぐらいで、水は穏やかですが歩く速さぐらいで流れています。小走りで船を追いかけます。これは、４～５回できます。第５戦まで、優勝、準優勝を用意しました。民宿のご主人の子供のころから行っている遊びです。

６．渓流での船競争
渓流船競争は、親水公園の横を流れる川で行います。炊事場辺りから下流になります。水は岩の間を様々な方向に流れていきます。距離は短いですが、動きに変化があり、面白いです。プログラムの中で何度も行います。ただし、渓流での船競争プログラムは１回だ

けです。第５戦まで、優勝、準優勝を用意しました。

７．林間コース弓矢競争
　場所は、高原の平地部分ですが、林の中は十分に起伏があります。立木を的に９番までの番号を取り付けます。第５戦まで優勝、準優勝、それと第６位の「頑張ったね」のイエローカードを用意しました。たくさんできるといいですが、１回戦の時間は１時間程度かかります。

　これらの競技の優勝カードは、終了後すぐに、その場でスカウトに渡します。それをスカウトが部屋に帰ったら記録表に貼りつけます。記録表は、バインダーにはさんで部屋の見えるところに置きます。部屋用の専用の糊も用意しました。
　とにかく、励ましながら上達を促す方針で目標を達成させたいと思います。

　また、奈々の山登りについて考えました。奈々が自力で登れるように、歩くピッチを遅くしたいと思います。通常は３０分に１回の休憩ですが、上り道は１５分か１０分で休憩します。本人が歩けないと言ったら、元気がでるまで待つことにします。一切荷物を持ってあげる手伝いは止めて休憩します。それから、奈々は一番前で私と歩いてもらいます。この方針は他のスカウトに待ってもらうことになるため、かなり我慢してもらうことになります。奈々の目標を達成させるために、他のスカウトには目的を十分理解させて、協力してもらうことにします。１時間ぐらい遅れるかもしれませんが、とにかく自力で登らせたいと考えています。
　対策として、荷物に不要なものは入れないこととし、軽くします。水筒もペットボトルにして軽くしたいです。

　とりあえず、いままでのところについて連絡します。ご意見を待っています。よろしく御願いします。
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

〜〜
■８月８日（金）
「明日から舎営」

　いよいよ明日９日から舎営が始まる。今日は会社を休みにして朝早く東京の寮を出て豊中に戻った。今回のテーマである「ジャングルブック」のシナリオを保護者にも渡してあ

げることにした。これを見ながら子供が今日は何をしているかを考えてもらえたらいいなあ。リーダーの苦労や楽しみもわかり、一緒に楽しんでほしい。

夕食の時間になった。明日は、みんな元気で参加できるだろうか。病気をしているスカウトがいないか心配になる。数年前に一人急病で参加できないスカウトがいた。今回は、スカウト数が６人しかいないので一人でも欠けると楽しみは半減する。今まで連絡もないし、大丈夫だろう。天気もこの１週間はよさそうなので雨の心配はいらない。これまでは、夏なのに何度も雨が降った。台風で２日間バンガローに閉じ込められたことがあった。でも、雨も自然の楽しみと考えられるようになった。気分を変えて、雨に負けずに楽しく活動できることで、スカウトは強くなる。もちろん天気の方がいい。気にせず食事としよう。

今日の夕食は一人だ。妻と社会人の娘は、いまパリに旅行中だ。それと、今日は北京オリンピックの開会式の日だ。一人でテレビを見ることになった。舎営の前日の開会式は記憶に残りそうだ。すばらしい開会式だ。入場式で、日本が２３番目に入場してきた。まだ、かなり続く。残りすべての国の入場を見るのは疲れそう。明日からの舎営に備えて、途中で寝ることにした。

～～

■８月１２日（火）晴れ

「舎営は大成功だった」

舎営は終わった。

今年の目標は達成できた。まず、奈々とともに鉢伏山に全員一緒に登ることができた。奈々は、歩き出してすぐに足の痛さを訴えたが、休みながらも自分の力で手助けなしで歩くことができた。本当によかった。

山登りを振り返ってみる。７時に宿舎を出発した。宿舎から続く登り道は森林の日陰が多くて涼しく緩い道だったが、奈々は、高原到着目前でついに泣きだしてしまった。「帰りたい」と言われて困った。やむなく狭い林道の途中で朝食タイムを取ることにした。奈々のペースでゆっくり歩いたので、もう８時半を過ぎていた。みんなもお腹が空いて限界にきていた。民宿のおじさんに連絡をして、ほどなく車で弁当を届けてもらった。おじさんの提案で、高原からは軽トラックの荷台に私以外の１０人をギュウギュウ詰めに乗り込ませて峠まで上げてもらうことにした。奈々は、車で峠まで上がれば、そこからは頑張ると約束してくれた。

朝食後、軽トラックが待っている高原まで全員で歩いた。軽トラックに乗ると、折れ曲がるカーブのところで「きゃあきゃあ」と声を出しながらあっという間に到着。峠から頂上まで尾根伝いに歩く。しんどいと言いながら景色の良さや涼しい風を気持ちよく感じ、

５００段の階段を登りきることができた。奈々は初めて他のスカウトと同じように登ることができた。他のスカウトも奈々の遅いペースをよく我慢してくれた。このことは、行きの高速バスの休憩時間に男子スカウト全員を集めて頼んだのだ。「奈々を一番前で歩かせる。何の手伝いもせずに、疲れたらすぐに休むことにするから文句は言わないでほしい」と。他のスカウトを思いやる気持ちが育ったと思う。

山田と大野は、何とか大きな声がだせるようになった。鉢伏山の頂上で大声コンテストの練習と本番をやった。一番と二番の大声賞は、川口と山寺だったが、山田と大野の真剣に頑張る姿がよかった。私は、どうやったら大きな声が出せるかを考えた。大学でやっていたギターマンドリンクラブのパート練習の要領でやってみた。それは、大きな声と小さな声を交互に出したり、小さな声から次第に大きくする方法だ。また、全員で声を出したり一人ずつ声を出させる。これで自然に声を出すことができるはずだ。難しいのは、私が妥協せずに大きな声を出させるように頑張ることだ。山田はちょっと失敗した。マンツーマンでだんだん大きくしていって最後に一番大きな声で「わー！！」と出すと、それまで声を出せたのに「エエ？」と言って止まってしまった。私は、「エッエー。エエ？じゃないでしょ。わー！でしょう」と言って笑ったが、それが山田の声の限界だった。声の出しすぎで、私の声はつぶれてしまったが、みんなも頑張ってくれた。４日目の氷ノ山のスキー場で行った大声コンテストでは、審判の副長が努力を評価して大野と山田に優勝と準優勝をあげてくれた。いままでよりも大きな声を出せた自信を持ってくれただろう。この判定に文句を言うスカウトはいなかった。みんなリーダーの気持ちを分かっている。そんなことで、そういう良い効果もあった。

これよりもスカウトがきつかったことは、毎朝の元気印カードをもらうために声を出すことだった。４人のリーダーはスカウト一人ひとりに大きな声で挨拶できたら元気印カードを渡す取り決めとした。声が小さいと、イエローカードになる。山寺は声が枯れるまで頑張っていた。今回の目標は「大きな声を出す」ことだ。これには、もう一つのプログラムもうまくできた。世界のナベアツの１から４０までで３の倍数と３の数字でアホになるゲームだ。いままで山田と大野ができないゲームだ。真面目すぎる性格のため、恥ずかしいと思えることはできないのだ。声の出し方やポーズの練習も教えた。かなりよくなったかな。努力する気持ちが、よく表現されていた。これは９月の団の報告会でもやることにしているので楽しみの一つになった。

林間コース的当て弓矢競技は、計画どおりに盛り上がった。鉢伏山の下山途中で降り出した雷雨が２時頃に止んでくれた。高原の炊事場で雨宿りした。今年は的にする木につける番号を準備した。ゴルフのハーフコースと同じ９本分だ。起伏のある林の中で、起点とする木から適当な距離にある木をターゲットとして、順番に１番から９番までつくり、起

点に戻ってくる。起伏があって短い距離と長い距離、そして太い木や細い木などが入り混ざったコースだから面白い。今年は昨年の経験から、民宿のおじさんは矢を改良してくれた。萱から少し重くて真っ直ぐな竹になっていて、まっすぐに飛ばせる。弓も紐を通す穴まで作ってくれていた。本当は、スカウトに竹を切らせたり、ナイフで棘々を削らせたかったが、おじさんに感謝して時間短縮になったことを喜ぶことにした。涼しい雨上がりの林の中で２回分楽しんだ。翌日は親水公園の広場で１０本の矢を何本的に当てられるかという的当て弓矢競技を楽しんだ。みんな確実に腕前が上がってきた。

スタンツもシナリオ作りから本番まで、組長のリーダーシップも発揮でき、まともなスタンツができた。テーマは、「ジャングルブック」。全体のシナリオは、ディズニーの映画を元にしたが、スタンツは子供向け絵本をベースに作られた。自由に考え、ジャングルブックには登場しない動物もでてきた。今回は組集会で作成した動物の絵を描いたＴシャツを全員が着た。私は、トラのシア・カーンの絵を描いた。今年はしっかりできてスカウトは満足していた。

金本副長補が考えたこのテーマについて、私は絵本や映画で研究し、動物の社会と人間の社会の違いを考えることができた。私達が目標にしている「カブ隊のさだめ」を元にどのようなおきてを取り入れなければならないかを考え、スカウトに毎日「ジャングルのおきて」として実行してもらうことにした。毎日のジャングルのおきては、朝礼の場所に隠しておく。朝礼時に暗号解読ゲームを行い、そのヒントから見つけ出す。生活習慣のおきてとテーマのプログラムを楽しむことで「ジャングルブック」を元に教育的成果も確認できた。だから、全体として大成功だと思う。

自分自身のこととしても今年はうまくいった。昨年は、右足を痛めて車に乗せてもらっていた。歩けなかった。今年は、体重を５月から直前までに５キログラム下げることができ、体調を万全にして舎営を運営できたことは私の自信になった。今年で５８才だ。体力的にまだ続けることができそうだし、スカウトのために何かしてあげたいという強い気持ちが残っている。

〜〜〜

■８月１４日（木）晴れ

「舎営記念の作文集の準備」

舎営が終わると舎営記念の作文集の準備を始める。私は、今回いつもより長い作文を書いた。すぐにそれを保護者とリーダーに送った。保護者は、スカウトの作文の指導をする

のに参考にしてもらい、リーダーは、自分の作文と私の作文内容がダブらないようにするためだ。団のホームページ用には、スカウトの名前を除いたバージョンを送った。

今回の作文集の構成として、舎営のプログラムで作成した「ジャングルブック」のシナリオも載せる。保護者には留守番中にも楽しんでもらおうと考えて、出発前に渡しておいたが、作文集に組み込んでおけば、永久に保存されるだろう。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

・舎営の報告メール（８月１４日（水）１４：２８メール送信）

浜嶋です。舎営の報告を送ります。

カブ隊本舎営「ジャングルブック」

隊長　浜嶋鉱一郎

今年の舎営は、８月９日から１２日まで３年連続で兵庫県氷ノ山の麓の民宿「喜楽屋」で行ないました。スカウト６名、デンコーチ１名、リーダー４名、合計１１名の参加者で、梅田から高速バスで行きました。

初日は、まず魚採りの仕掛けづくりと弓矢づくりの準備などを行いました。涼しくなって１７時からの開村式にしたのは今回初めてです。ジャンボリーのプログラムをまねてみました。ジャンボリーでは、全国から参加したスカウトがまずテントを設営して、キャンプの準備ができてから、開会式を行ないます。夜は涼しく照明を使ったイベントはより効果的な演出もできます。夜は肝試しと小営火、２日目は鉢伏山の登山と林間での遊び、夜はバーベキューとスタンツの練習です。３日目は親水公園での水遊びと大営火、４日目は氷ノ山スキー場で気持ちよく手旗遊びを行ないました。

今年は、北京オリンピック開催と重なりました。そこで、多くの競技を行うことにしました。各競技毎に、終わったら速やかに表彰式を行い、小さな表彰状を渡しました。各競技は第５戦まで行い、優勝、準優勝やその他の順位も渡しました。スカウトたちはたくさんの表彰状を獲得でき、それをＢ４サイズの水色の記録表に貼りつけました。帰りには紙いっぱいに赤、緑、黄緑色の元気印カードや表彰状、ところどころに黄色のイエローカードが貼られていました。

成績はすべて付録に載せています。

１．弓矢の的当て競技は、林間で９本の立ち木に番号札を結び付け、２本の矢で当てて回るコース的当てと定位置の的を１０本の矢で当てる的当てで、もっとも人気のある楽しい競技でした。千里中央公園で練習した成果がでました。山寺君が３日目の親水公

園になって上達していましたね。今年は、弓は喜楽屋さんのおじさんが紐を通す穴まであけて準備してくれていました。

２．船競技は、各自が作成した豪華な船から簡単な船が揃い、まず船のデザインを表彰しました。山田君と金本君が立派な船で、デザイン賞でした。競争では他の軽い船と比べると苦戦しました。２種類のレースを行いました。林道の側溝を流れる水路での競争は、距離は１００メートルもあり、小走りのスピードで流れていきます。２回目から成績の下位の船が前からスタートします。また、川の渓流での競争は、流れのよどみに引っ掛かってなかなか流れなかったり、抜きつ抜かれつで、全員が熱くなりました。

３．アホになる競技は、「いち」、「にー」、「さ～～ん」と３の倍数と３の付く数字でアホを表現する競技です。５位と６位には、「アホになれないアホ」のイエローカードを渡します。これは９月の報告会でみんなの前でやりますから、まだまだ練習をします。川口君、金本君、山寺君は文句なしのアホになれました。奈々はまあまあ。大野君は頑張ったね。山田君はもっとできる。手つきと声もしっかり教えた上で、それぞれの特徴のあるアホになってもらいました。

４．大声コンテストは、鉢伏山の頂上、親水公園、氷ノ山スキー場で行いました。全員が大きな声をだせるように、リーダーが見本になり全員と一人ずつの練習をしてから、行いました。リーダーの声がつぶれましたが、スカウトはいつもよりも大きな声を出せるようになりました。

５．２団オリジナルのアイス棒旗取りジャンケン戦ゲームも雨が降っているときや氷ノ山スキー場のロッジの日陰で行いました。

６．街中の追跡サインは、少し変わっています。山からの帰り道で、民家が並ぶ街中の知らない道を追跡サインで進むタイム競争です。7分程度ですが、楽しかったようです。山田君、山寺君チームが優勝。もう一度やりたいと言われましたけど、もうそれ以外は道がないほど小さな街の大きさです。

７．肝試しは、全員が強がっていましたが、結局１人で歩くと言ったのは、川口君と金本君で肝試し賞をゲットしました。

今年の目標は、「元気を出す。大きな声をだす」です。毎朝、元気印賞を朝の挨拶の大きさで判断して各リーダーが各スカウトに渡します。声がでないと「もっと頑張れ」のイエ

ローカードになります。朝は、民宿中に「おはようございます！！」の声が響きわたります。これで、大きな声を出すことは達成できました。

楽しい遊びの他に今回の舎営のテーマは、金田副長の発案で「ジャングルブック」としました。このシナリオでプログラムを展開して、カブスカウトとして大切なことを考えさせました。スカウトもリーダーも動物の絵を描いたＴシャツを正装として着用し、セレモニーに参加しました。

開村式で、ジャングルの王であるシア・カーンは、大きな声を出したい子ゾウさんとすぐに悲しくなって泣いてしまうハチドリさんに対して勇気を持つためのやりとりをしました。この後で、スカウトにもこの舎営で、できないことにチャレンジするように激励しました。ここからが舎営の始まりです。

毎朝起きると、スカウトは暗号を受け取り、暗号表で解読します。３つのヒントから「ジャングルのおきて」の隠し場所を考えて、それを探し出して朝礼に持参します。たとえば、「こわいはなし」、「はしごよりらくにあがれる」、「のしたにある」で、隠し場所は「階段の下」になります。スカウトは暗号を簡単に解読でき、ヒントから隠し場所も簡単に見つけました。

２日目の朝７時に出発した山登りでは、スカウトに宝物を考えてもらいました、ジャングルブックでは、「サルの都」に宝物を取りに行きますが、ここでは山頂に登ったら何か宝物があるはずだ。それを見つけて発表することにしました。さて、ハチドリさんに似たスカウトは、奈々ちゃんのことですが、本人はわからなかったと言っています。ハチドリさんはシア・カーンに勇気づけられて、涙君とさよならできたのですが、奈々ちゃんはどうなったでしょうか。今回の作戦は、奈々ちゃんが自力で山に登られるように、誰も絶対に手助けはしないことにしよう。先頭を歩いてもらって、しんどくなったら元気がでるまで休憩することにしよう。どれだけ時間がかかっても一緒に登ることにしようと本人以外には申し合わせていました。涼しい林道から登り始めました。５分歩いて休憩、３分歩いて休憩、もう少しあそこまで、日陰のところまで行こう。ここは緩い道だからもう少しだけ行こうと１時間ぐらい進みました。もう５分で高原の手前のところまで登ってきました。残念ながら、ついに奈々ちゃんには涙君が戻ってきました。やむなく朝ご飯を食べることにしました。食べたら元気がでて、高原に到着しました。でも、ずいぶんと頑張りました。なにしろ、手伝いなしで登りましたから。ここまで他のスカウトは誰も文句を言わずに協力してくれました。ほんとうに我慢してくれて偉かったですよ。

ここから山頂までは３００メートルの高さがあり、山頂も登り道も見えていますが、これからが日陰がなく、きつい山道になります。奈々ちゃんは、もう帰りたいと言うので、別のことを提案しました。それは、予定した登山の反対周りコースにして、山の峠まで車で上って、残り３０分を山頂まで自力で登り、後は山道からここまで下るということです。

この説明で奈々ちゃんは、なんとかチャレンジする気になってくれたのでやれやれでした。軽トラの荷台に１０人が乗って、苦しい姿勢ながらも楽しい山登りになりました。

峠から、５００段以上のきつい登り階段が待っています。しかし、眺望がよく、気持ちがいいので、奈々ちゃんは、休みながらもみんなと一緒に３０分でなんとか頂上に立つことができました。さっそく、２団カブ隊の舎営旗を竹２本につないで先端に結び、柱をロープで３点のペグに留めて、高々とあげました。記念撮影。まだ１０時を過ぎたところです。

山頂は冷たい風が気持ち良く、絶景でした。さて、宝物はあったでしょうか。スカウトにはヒントになるジャングルブックの話の続きを聞かせて探させました。スカウトがヒントをねだるので、ものではないということだけ説明しました。一人ひとりからは、景色や協力という意見がでてきました。そこで、３人のリーダーの動物が宝物を説明しました。

それは、頂上までみんなで一緒に助け合いながら、励まし合いながら登ってきた「友情」、目標を達成する「努力」、そして、しんどくても頂上まで登って気持ちがいいこと、鉢伏山に登って感じた「感動」だと説明しました。お金で買えない宝物、自分達で創る宝物についてみんなきちんと理解できたようです。

山頂は涼しくて下山したくない気分です。ここでは、子ゾウ君のようなスカウトに大きな声を出させる作戦を行いました。これは山田君と大野君です。音楽の練習のように小さな声からだんだん大きくする方法です。でも恥ずかしさの限界までくると声がでなくなります。小さい声からだんだん大きくなっていきますが、もう少しというところで、「エエ？」と言って止まってしまいます。山田君のクロヒョウの名前はここから生まれました。全員で声を出したり、一人ずつやったり、他のスカウトも大きな声をだしました。川口君の「バカヤロー！」、山寺君の「あいうえおー！」、「ヤッホー！」という声が山を揺るがしました。声の小さなスカウトは氷ノ山スキー場での大声コンテスト第３戦では努力が実ってハンディー付きで優勝カードを手にできました。山の上でもジャンケンゲームで遊んでから下山することにしました。下りは急な階段でしたが、快調でした。奈々ちゃんからは涙君は消えていました。

途中から雨が降り始め、すばやくポンチョを身に着けました。高原に戻ったところで激しい雷雨になり、２時間近く続きました。高原の観光センターの休憩所と広い集会所を特別に貸してもらいました。炎天下にならない登山でよかったです。

３日目は、川遊びです。ジャングルの渓流上りが気持ちよかったですね。朝礼でジャングルの新しいおきての話をしました。ジャングルのおきては、むやみに動物を殺さないことです。生きるためにしか殺さない。人間は遊びや飾りのために動物を殺したり、食物もたくさん捨てて無駄なことをしています。初日に魚取りのペットボトルのしかけを作り、川にしかけました。今日はその結果をみますが、捕れた魚は逃がしてあげることを今日のおきてにしました。結果は、獲物は一度は中に入ったようですが、入り口が広くて、また外にでたようでした。

夜の大営火では、ジャングルブックのクライマックスです。アホ変身ゲームやその罰ゲーム、歌等で楽しく進み、いよいよスタンツの始まりです。スカウトは絵本をもとに、川

口組長を中心に自分達の動物、山田君はクロヒョウの「エエ」、川口君はサルの「ファン」、大野君はゾウの「パフォー」、奈々ちゃんは犬の「ロッシー」、金本君はパンダの「ジャイ」、山寺君は日本しかの「ニッポンチャチャチャ」を登場させるシナリオを考えました。うさぎの金本君と山寺君はシナリオができるまではふざけてばかり。でも今回はしっかりできて、昨年だめだったスタンツのリベンジを果たしました。

リーダーは、サルの都に宝物探しにいく場面、建物から外へ逃げ出したモーグリがシア・カーンと対決する場面のスタンツです。

ジャングルのおきてやカブ隊のさだめを大切にすることを確認しました。

第４日目のおきては、「感謝の気持ちを残して、きれいにして帰ろう」です。

３日目と４日目の朝礼の後の部屋の点検でも持ち物の整理や清掃がきれいにできていました。

金本君の３枚のイエローカードの話。氷ノ山に行くのに時間厳守で順調に準備をしていたところ、集合時に帽子をかぶっていない。取りに戻らせたところ、ないと言って戻ってきました。探しに行くとカバンにちゃんと入っています。これで３分遅れたのでイエローカード３枚をあげることにしました。実は朝の点検で何もかもカバンに詰め込んで何がどこに入っているかわからなくなっていたのです。

ところがまだ話は続きます。帰りにスキー場のゲレンデをかなり下りてきたところ、金本君が帽子をかぶっていない。帽子を持って車から下りて上に忘れたようだと金本君は言います。ここまで撮影したデジカメでいつからかぶってないかを調べると、全然かぶっていないことがわかりました。リーダーもチェックミスを反省しながら時間がないのであとから車で取りに行こうと考えながら下りてきました。ところが、昨日初めて知ったことですが、林道の途中に喜楽屋さんの車庫があるのです。幸い、そこに往きに乗ったワゴンが止めてありました。私は、もしかしてと思って急いで中を見ると、なんと帽子が床に落ちていたというお話です。よかったわー。

閉村式では、「友情」、「努力」、「感動」の宝物とジャングルのおきてやカブ隊のさだめの大切さをもう一度確認しました。そして、競技別の総合優勝、準優勝の表彰や元気はつらつ賞、すじたおす賞、最優秀スカウト賞を授与しました。

「三泊四日、喜楽屋さんのおじさん、おばさん、ありがとう。氷ノ山、ありがとう！ウォー、ウォー、ウォー」

全員無事に豊中に帰りました。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

メールを出したあとで、山田さんから返事が届きました。

＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜

返信

・山田　２００８／８／１４　１５：０９

こんにちは。
舎営では、みなさんには、たいへんお世話になりました。
舎営でのくわしい内容がよくわかりました。隊長さんやリーダーさんに本当によくしていただきました。ありがとうございました。
息子も舎営での小さな進歩を形にしていってほしいと思います。
>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>

〜〜
■８月１５日（金）
「ボーイ隊のキャンプへ参加」

　これは、カブ隊ではなくボーイ隊に関する話。
　昨年に続いて、カブ隊の舎営の後、ボーイ隊のキャンプに寺町団委員長と参加することにした。リーダーが足りないので応援を依頼されている。遅れて参加するボーイ隊阪田副長も一緒だ。キャンプ場は、滋賀県のマキノスキー場で気楽な車旅となった。
　私の明確な役割は、今日の大営火の「営火長役」を行うことだ。昨年は、ボーイスカウトの創始者ベーデンパウエルの服装で登場させてもらったが、今年はどんな展開になるだろうかと楽しみだ。ボーイ隊は、毎年私を当てにしている。
　１０時頃に到着すると、スカウトが赤坂山の登山に出発するところだった。とてもご一緒する気になれずに、登山口まで見送って、留守番にした。サイトは日陰の多い桜林の中にある。
　特に何をするということはない。すぐに昼になったので、迷惑をかけないようスキー場のレストランに行くことにした。なんか贅沢な気分だ。人里離れている場所ではなく、川を挟んだ向かい側のスキーゲレンデは、芝生広場でオートキャンプ場になっている。たくさんの家族連れの車と立派なドームテントが並んでいた。いつも寂しい場所でキャンプをするのに今回はちょっと賑やかだなと違和感を感じた。
　ボーイ隊のテントサイトは、あまり整備されていない。西側は山で、西日は差さない。反対側は、川がキャンプサイト沿いに流れている。サイト全体に広がる大きな桜の木の下は、全く日陰になっていて川の冷気がサイト全体を包む。
　スキー場の芝生は、太陽の日差しが暑く対称的だ。
　さて、営火のプログラムの準備だ。場所は、広々とした広場で明かりが見えない場所だ。今回は、営火長の服装は何もない。結局、雨具を着ることにした。フードを目深にかぶると暗い夜だから、少し迫力が出てきた。右手に太い木の枝を持ってかっこうをつける。今回は最初から椅子に座って、みんなの入場を待つことにした。
「私は、赤坂山から下りてきた赤坂大明神です。今日は楽しい営火に参加させてもらいま

す」と挨拶し、点火の指示をすると、点火役のリーダーが、丘の上から火をぐるぐる回しながら下りてきた。その点火で始まった。

営火長は、じっと座ったままなので、おもしろくない。私は、結構一緒に遊んだ。ある班のスタンツが始まった。なんと、彼らも世界のナベアツの３倍数をやり始めた。ところが、練習不足で全然できていない。カブスカウトの方が上手だ。私は、すたすたと前にでて、見本を見せてあげた。一人で、１、２、さあ～ん、４、５、ろーく、・・・。２０ぐらいで息が切れた。ああ、スカッとした。全体に、ゲーム、歌、罰ゲーム、スタンツが続いた。

最後に、
「今日は今までの営火で一番楽しかったです。ありがとう。これで、赤坂山に帰ります。」と告げた。今度は、山の方に歩いて消えることにした。いや、本当に今日の営火は楽しかった。

～～

■８月１６日（土）

「組分け」

毎年楽しみの一つは新年度の組編成だ。来年度はスカウトの人数が増えるので、わくわくした。今年度は５人のスカウトで始まったので考えるまでもなく、１組編成だ。組長と次長を誰にするかを考えればよかった。そして、２月に１名入隊し、７月に２名入隊したので８名に増えている。来年度の９月は上進で２名減るが４名入隊するので、１０名に増える。この場合は、５人ずつに分けて２組にすることができる。２年ぶりに２組編成が復活だ。しかし、組み合わせのちょっとした悩みはいつもある。今回は１家族で複数の兄弟や両親が参加するので、その組み合わせが悩ましく、一考を要した。

３家族のうち、Ａ家族（くまの兄とうさぎの妹の兄弟の組み合わせ)、それとＢ家族（くまの姉とうさぎの妹のスカウトとその母がデンリーダーという家族の組み合わせ）もいる。

私の組編成の方針は、兄弟は別の組にする。また、親と子供は組を分ける。２組しかないので、１家族で３人の場合は、どちらかのスカウトが母と一緒になり、どちらかが別になる。これは８年間で初めてのことだ。

編成案を副長に送ると、以下の注文がついた。

「デンリーダーに是非言ってほしいのは、お母さんと呼ばせないこと、松本リーダー、中崎リーダーと呼ぶ、ＤＬも他の子と同様に呼び方を揃える、(苗字で呼ぶ、さんや君をつける、みんな呼び捨てはやめる etc.）

直接自分の子を叱らずその組のＤＬに任せる。母でなく、指導者であることを意識してほしいと思います。」

これが、ボーイスカウト活動のやり方だが、なかなかＤＬとなる保護者はできない。自分の子供が気になってしかたがない。そんなに気になるのなら、家でしっかり子供をしつけると良いのだが、これが実態。隊集会では別の組になるから、そこで競争をすると楽しいし、家に帰ってからもその話題ができる。こういうことは役得だから、一度はやってみたいというお母さんはいる。
デンリーダーの指導は隊長の役割だから、その準備をしておこう。

〜〜

■８月２４日（日）晴れ

「りすの道」

９月に入隊する予定の１名に「りすの道」を実施した。２年生の吉田明子ちゃんだ。３名は、舎営から帰った次の日の８月１３日に実施済みだ。明子ちゃんは、都合が悪くてビーバー隊の隊集会の前に行なうことになった。９時１５分から４５分までの３０分間。私は、カブ隊のお別れ会のスタンツの練習の時間を抜け出して、近くにある大曽公園で待ち合わせた。ちょっと約束時間を過ぎていたので心配したが、お父さんと一緒にやってくるのが見えてほっとした。近づいてから私から声をかけた。
「おはよう」
「おはようございます」
目をくりっとさせながら、元気な声が返ってきた。お父さんは、それを聞いて安心したかのように挨拶した。今日は、一人だけなので最低限のこととして３０分で終わらせることにした。お父さんには、一緒に話を聞いてもらうようお願いした。
最初に敬礼の確認だ。ビーバー隊に所属しているからこれぐらいのことは説明無しで大丈夫。
「では、今からりすの道を始めるね。はい、これは『りすの道』の本です」
と言って、黄色の本を渡した。
「ちょっと聞いていてね。説明します。カブ隊は、うさぎ、しか、くまスカウトと呼ぶよね。りすは、ビーバーよりも大きいかな。どう思う」
明子ちゃんは、すぐに「りすは、ビーバーよりも大きいと思う」と言った。
「明子ちゃんは、ビーバーから今りすになって、今度９月にカブ隊に入って、うさぎスカウトになります。りすの道はね。ビーバー隊からカブ隊に入るための準備をするんだよ。

明子ちゃんは、ビーバー隊でやってきたからもういろいろ知っているから簡単だと思うけど、カブ隊のことをしっかり覚えてくださいね」

明子ちゃんは、ビーバー隊を経験しているので、基本動作の変更はスムーズに行なえた。スカウトサイン、敬礼、握手は、手の形を少し変えるだけだ-。ビーバー隊では中指と人差し指が引っ付いているのを、今度はじゃんけんのチョキの形にする。すぐにできた。スカウトサインは、ビーバー隊は腕を横にし肱を９０度上に曲げるが、カブ隊では、腕を耳に当てるぐらいにまっすぐ上に上げる。手はチョキの形だ。敬礼も握手もチョキの形で行なう。チョキは、２つの指で、２つのやくそくと動物の耳を表している。

次は、カブ隊の「カブ」の意味を説明した。

「カブは動物の子供のことだよ。動物の子供は元気でしょ。いつも元気に遊ぶから、カブ隊のモットーは、『いつも元気』と言います。集会が終わると、スカウトは左指を絡ませて丸く輪になります。右足を後ろに引いて構えます。右手を上下に上げ下げしながら、『ぼくらのモットー、いつもげ・ん・き』と言って、最後の『き』で後ろに飛び跳ねて、両足をそろえてから敬礼をして解散するんだよ。今度みんなと一緒にやろうね」

一息ついてから、また話した。

「さあ、ちょっと難しい話になるけど、ビーバー隊にはいるとき、ビーバー隊でやくそくをしましたね。カブ隊に入るときもやくそくをしますよ。それを覚えてきて欲しいんだ。りすの道の２番に書いてあります。『ぼくはまじめにしっかりやります。カブ隊のさだめをまもります』というのがやくそくです。明子ちゃんは女の子だから、『ぼく』と言うのはいやだよね。だから、『わたし』にしようか。でも『わたくし』と言ってください」

このやくそくのセレモニーは、一人ずつ行なう。ですから男の子は、「僕は」と言い、女の子は、「わたくし」と言い分けることができる。説明を続けた。

「このやくそくは、２つに分かれているね。『わたくしはまじめにしっかりやります』と『カブ隊のさだめをまもります』ですね。だから、チョキは２つのやくそくを表しているとさっき説明したよね。それから元気な動物の２つの耳のことだったね」

「それから、『カブ隊のさだめ』ってなんだろうね。５つあるよ。ちょっと本を見てくれますか」

「まず、『カブスカウトは、すなおであります』だね」

「明子ちゃんは、お母さんやお父さんに言われたことをちゃんと言うことを聞いていますか。すなおというのは、リーダーやお母さんが、明子ちゃんにこんなことをしてほしいと言ったときに、嫌だとか言わないで、すぐに言うことを聞くことかな。わかる？」

明子ちゃんは、大きな目をくりっとさせて、にこにこしながら聞いている

「次は、『カブスカウトは自分のことを自分でします』だね」

ここで、中腰になって頭を低くしながら話していましたが、しゃがんで目を明子ちゃんと同じ高さにしました。

「今は、自分で服を着たり、学校の準備もできているかな。カブスカウトになったら、

お母さんとお父さんは、集会に一緒に付いてこないから、自分のことは、自分でできないといけないね。だんだん大きくなっていくと自分でできるようになるね」

「カブスカウトはたがいに助け合います」

「この意味は、なんでも一人でもできるけど、協力してやると早くできることがあるでしょ。服を着るときもちょっと手伝ってもらうと着やすくなるでしょ。雨が降ったらポンチョを着るけど、助け合う方が、一人ひとり別々に着るよりも早くできるんだよ」

「カブスカウトは、幼いものをいたわります」

「幼いものってわかるかな。明子ちゃんがカブ隊に入ると、ビーバー隊のスカウトは幼いものになるね。くまスカウトにとって幼いものというのは、しかとうさぎのスカウトだね。明子ちゃんは幼いものになります」

「カブスカウトはすすんでよいことをします」

「これは難しいね。進んでというのは、自分で考えて自分の気持ちでということなんだけど。できるかな。いろいろなことを経験するとだんだん分かってくるよ。お母さんにこれをやってと言われる前に手伝ってあげることもこのことだね。お母さんは明子ちゃんが自分から手伝うと喜ぶだろうね。誰でも思ってもいないことをしてもらうとうれしいよね」

明子ちゃんは、ここまでよく我慢できました。

ここで、ちょっと遊ぶことにしました。

スカウト全員に渡している練習用ロープを使う。登山用の直径６ミリメートルの赤色のカラフルなロープを１．５メートルに切って作ったものだ。カブ隊のロープ結びは、この練習用ロープを使ってほとんどできる。一番長さが必要な結び方は、もやい結びだ。腰の後ろにロープを回す分だけ必要で、大人の体でも１．５ｍあれば十分だ。

本結びは、うさぎ課程で覚える簡単な結び方で救急用の結び方だ。

また、この結び方を解くときに奇術のような解き方ができる。そのところをさり気なくロープを解くことで興味をもたせる。その結び方は、ローブの両端を持ち２回縛ります。しっかり強く結びます。でも、いくらしっかり結んでも、外すことは正に奇術となります。同じような結び方にコマ結びがあります。これは、しっかり結ぶとはずすことはすごく骨が折れます。でも、「えいっ！」と大きな声を出すように格好をつけて、ローブの端と同じ側の縛られたローブを持ち、腕を両側に引いてまっすぐに張れたなら、結び目をまっすぐなロープに沿って移動させるとロープの端からぽろっと外れます。ここは力をかけずにできるだけ軽く指先で行なう。

明子ちゃんは、すこしずつ覚え、何度かやって覚えた。つぎにどちらが早いかを競うことをするが、それはカブ隊に入ってからになる。

これで、りすの道は修了だ。家でもう一度本を見ながら、やくそくとカブ隊のさだめを覚えるよう伝えた。それができたらお母さんにサインを貰う。

明子ちゃんは、お父さんと一緒に一度家に帰り、ビーバー隊の隊集会の準備をして、ま

た大曽公園に戻ってくることになった。家は近い。私は、この後すぐに栗ヶ丘会館に戻った。

「今年も今日で終わり、くまスカウトのお別れ会」

今日は、今年度最後の隊活動になった。最後の集会は、ボーイ隊へ上進するくまスカウトのためのお別れ会になる。今年はカブブックの履修を終わらせることが大幅に遅れて、今日やっとすべてを終わらせた。お別れ会は、午後にビーバー隊と合同でやった。午前中は、カブブックの修了と９月に行なう報告会の準備。カブブックの内容は、隊活動でやることや家で行なうことがある。できなかった項目は、内容をスカウトに個別に説明してサインをする。それで全体を修了とする。副長やデンコーチにも手伝ってもらい、分担してサインをする。全部サインをし終えるとスカウトは、隊長のところでカブブックの修了サインをしてもらう。

カブブックの修了が一番早かったのが、山田君だった。カブブックの修了証に隊長サインをして、「おめでとう。一番早かったよ」というと、うれしそうにニコッとした。その後で舎営の大声コンテストの時の話をした。山田君は４日目に準優勝を獲得したのだ。

「大きな声を出せるようになったね。でもまだまだ出ると思うよ。恥ずかしいのかな。隊長も小さいときはだめだった。本当言うと隊長は大きな声が出るようになったのは大学になってからだったよ。でもね。大きな声がでたら気持ちがいいと思うよ。君は、もうすぐなんだけどね。声を出せたら自分が一番楽しいからね。報告会でアホの変身をやるけど、君が大きな声を出してくれたら完璧だと思うよ。頑張ってやってみようよ」

「・・・」

にこにこと恥ずかしそうにしていたが、はっきりと声は出なかった。他のスカウトもどんどん修了して、やってきた。

さて、お別れ会の最後になった。くまスカウトに記念品を渡したあと、最後のお別れの挨拶を二人のスカウトに頼んだ。ところが、何を言ったらよいか分からないようだった。

「ありがとうございました。って言いなさい」と川口君に言いましたが、意外な答が返ってきた。

「なんで、ありがとうと言わないといけないのか。それは言えません」と言ったのだ。しばらく嫌がっていたので、結局声がでなかった。私は困ってしまい、私が二人に代わって挨拶をして記念品授与を終わりとした。

これらを午前中にすませて、午後から保護者も参加してお別れ会を行なった。ビーバースカウトに兄弟がいるスカウトが３人いるので、ビーバー隊と合同となった。

お別れ会のゲームは、３つで３チーム対抗戦。１つ目は２団カブ隊オリジナルの「旗取

りじゃんけん戦」で、チーム優勝と個人表彰を行った。２つ目は紙飛行機飛ばし競争でＡ６サイズの紙で小さな飛行機を折った。３つ目は、ビーバー隊の隊長が考えた「文字モジゲーム」だった。たくさんのひらがなの文字カードを用意し、あるテーマに沿った言葉を作る。その文字カードの数が多いチームの勝ちだ。

内容は、保護者とリーダーに送ったメールに詳しく書いた。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

■本日の報告（８月２４日（日）１９：２１メール送信）

浜嶋です。

本日はお疲れ様でした。

合同のゲームは、楽しかったですね。

さて、午前中ですが、報告会のスタンツの練習をしましたが、時間切れ時点で、植田リーダーの評価は３０点でした。もう一度見せてもらい、いくつか注文をつけました。

大野君のモーグリの赤ちゃんが泣くところを、大野君はもっと声を大きくすることと、声だけでなく、手の平を顔の両側に広げて、わかりやすくすること。金本君がモーグリを探すところは、

「モーグリはどこだ、モーグリを捕まえてやる」

と声をあげながらゆっくり歩くこと。

大野君がゾウに変わるときは、一度右端に抜けてから、手を鼻のように伸ばしながら、「パフォー、パフォー、パフォー」と声をあげながら入ってくること。

金本君だったかな、モーグリと大野君のゾウが遊びにいくときはスキップをしながら、楽しいふりをすること。

サルの中崎君は突然の参加だけど、右側からでてきて、モーグリを後ろから捕まえること。

山田君と川口君がサルからモーグリを助ける格闘シーンでは、山田くんの相手は見えないから、一人で相手をやっつける格好をすること。注目を集めるようにすること。

配役が途中で別の動物に変わるときは、「〇〇です」ということ。

などです。

少しよくなりましたから、家で練習してください。自主的にやってくれるといいですが。

それから、アホになる練習をしました。本番は、まず最初に一人でやってもらいます。山寺君が一番手ですが、３０あたりからスタミナが切れそうです。頑張ってね。つぎに川口君にやってもらいます。完璧でしょう。この二人で盛り上げます。つぎに、スカウト８

人にデンコーチ２人と隊長が加わって１１人でやります。１回やったら、残りのリーダーに「アンコール」をかけてもらいます。リーダー頼みます。
　報告会では、さらにそれから、作文を代表に読んでもらいます。山田君、奈々ちゃん、金本君にしようかな。それとリーダーから全体の報告を行います。
　今日は、アホの練習の後にカブブックをチェックし、全員クリアしました。１２時からクリア章の授与と年功章を授与しました。チャレンジ章もできた分をお渡ししました。上進式につけてきてください。

ということで、報告会は、９月７日８時３０分集合の予定です。また、連絡します。
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜
□返信
・山田　２００８／８／２５　９：２４
　おはようございます。いつもお世話になります。
　昨日はありがとうございました。
　楽しいお別れ会でしたが、息子が最後の挨拶ができなくて申し訳ありません。隊長さんやリーダーさん、デンコーチなどたくさんの方にお世話になっているのに、「ありがとうございました」と一言でもいいから言ってほしいと思いました。残念です。
　終わってから息子に聞くと「言いたかったけどできなかった」と言ったので、「感謝の気持ちをもっているのは大事だけれど、それを言葉にして伝えることができるようにならないといけない。」と伝えましたが、わかっていても息子の気持ちがかわってくれないとできるようにならないと思います。

　みなさんには、たいへんお世話になりました。本当にありがとうございました。
　報告会、少しでも、よくなるように練習しておきます。
　よろしくお願いします。
＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜

〜〜
■８月２６日（火）
　「修了証の作成」
　今日は、９月７日の日曜日に新年度最初の行事として団が開催する総会、上進入隊式、報告会のうち、上進入隊式の時にスカウトに授与する「修了証」を作成した。カブ隊を修

了し、ボーイ隊に上進するスカウトに授与するもので、今年は２名が修了する。文面は、私が毎回考えて作成することにしている。

カブ隊用の表彰状用紙（緑）を使用して、筆で一人ずつ書く。この修了証を書きながら、修了式で修了証を渡したときに感極まって声が出なかった過去の修了式が思い出された。今年はどうだろうか。あの二人なら大丈夫と思うが、突然そんな気持ちになってしまうから、これだけはわからない。

「一年皆勤賞の作成」

また、１年皆勤賞の表彰状も作成した。一年皆勤賞は隊で表彰するものだ。１年間一度も休まない場合は皆勤賞で、一度だけ休んだ場合は精勤賞となる。これは８名中４名となった。他にも３年皆勤賞というのもあるが、カブ隊に所属する３年間まったく休まなかったスカウトに授与する。今年は該当者はいなかった。１年皆勤賞には記念品も渡す。今年はスカウトグッズの中から温度計の付いたキーホルダーにした。

書き終わったらほっとした。まだまだ準備することが残っている。

〜〜

■８月２８日（木）

「年間プログラムの作成」

総会に提出する資料の平成２０年度の活動内容として年間プログラムを作った。今度は隊長８年目になるので、この数年間は同様なパターンで計画するようになっていた。作成のポイントは、１２月のスカウト祭の企画と８月の舎営の場所と内容だ。１２月は、９月から３ヶ月で準備を行う企画で、これまでのテーマは、「豊中百景の作成」、「各自一発芸を披露」、「しっかり演劇」、「自作の紙芝居」、「マジシャンになる」、「僕は写真家」などがある。演劇と紙芝居が作成プロセスと発表がよかったので、どちらにするか考えた。どちらもシナリオづくりは共通だ。発表も似ているが、演劇は体と声を使う。なにかと今後に役立つ要素が多い。そこで、スタンツが少しよくなったので、さらに向上させるために、「仲間で作る演劇」にすることにした。

スタンツは、ボーイスカウトでは、営火のときに必ず組単位、班単位でやることにしている。スタンツは寸劇と言って簡単な短い劇だ。だから、この準備もあまり時間をかけることは必要ない。スカウトは、不思議なことに二回目、三回目になると要領をマスターして、自然にできるようになる。いつも現地に行ってから考えるものだ。一日で考えて、台

詞を覚えて、本番をやる。私たちは、スカウトがどこにこんな力がでてくるのかと感心している。一方、全くできなくて、５～１０分間時間が過ぎ去るのを待つ場合もある。これはボーイ隊の場合だ。スタンツなのに、クイズやゲームをする場合もある。３年間で、高度な知的活動とスピーディな対応力を身につけて卒業していく。うさぎは、何もわからず、くまとしかの様子を見ている。しかになるとシナリオ作りに参加して、好きなことを言いだす。くまになると話をまとめてシナリオまで書いてしまう。ボーイ隊にあがると、もう自分で事前に考えて準備するスカウトが出てくる。内容はさまざまだ。とにかく、短時間でまとめて発表するだけでも高度な知的活動だ。私は、せっかく考えたシナリオをきちんと発表してもらうことにこだわっている。大きな声で話すこと、前を向いて演じること、大げさな身振り手振りで行なうこと。これらをできるようにさせるため、じっくり基礎能力をつけるための演劇の訓練を行なうプログラムが重要だ。それで、今年も演劇をテーマにした。

舎営の場所は、ボーイ隊から、来年は合同でやろうと言っているので、それに乗ろうかと考えている。早めに決めたい。

ところが一番大きな食い違いは、海で行なうか山で行なうかだ。私は、舎営の場所として、山が好きだ。海は嫌い。いままでで、カブ隊とボーイ隊の１８回の舎営またはキャンプで、海は5回だけ。若狭湾、西舞鶴、日高町、大三島、黒島。海は暑くて体力を消耗するため、隊長の任務を果たす自信がないのだ。とにかく涼しいところで、元気よく活動する方が楽しい。海で泳いで遊ぶことより、山でしんどい思いをして登る方が、スカウトの精神的な教育によいと考えている。自然の変化を感じるには山の方がバリエーションが豊富だ。